

## 「学生による就職座談会」実施報告書

弘前大学においては、「青森創生人財育成・定着推進協議会」参加校と連携し、地域の課題を解決する人財育成と学生の県内定着に向けた各種事業を実施しています。

令和2年度に開催の「産官学情報交換会\*」において、今後、より実効性のある県内定着の取組を進める上では、学生が就職に関して考えていることを知ることが重要であるとの提言がなされています。（「産官学情報交換会」は、青森創生人財育成・定着推進協議会 規約第11条に基づき設置。特に学生の県内定着に向けた各種事業の実施について、高等教育機関・自治体・経済団体等が意見交換及び協議を行います。）

こうした経緯も踏まえ、弘前大学(地域創生推進室)では、2か年度にわたり文系学生及び理系学生による就職座談会を開催しました。文系学生については、これまでいくつかの機会に報告しておりますが、ここに改めて、文系学生及び理系学生の声を同時公開するものです。

これから就職活動に向かう学生にとっては、活動の際のヒントとして、また、教育機関、自治体や経済団体等においては、学生の就活支援や、県内定着促進、採用活動及び人財確保のための方策を考える上で、参考にさせていただけるものと考えております。

なお、本座談会での発言は、コロナ禍というこれまでと違った状況下での就職活動を通して述べられたものです。また、時間の制約もあり、言い尽くされていないところもあるかとは思いますが、何とぞ、ご理解の上、お読みくださるようお願いいたします。

### 【就職座談会】

区 分	文系学生編 (写真左下)	理系学生編 (写真右下)
開 催 日	令和4年1月26日 (水)	令和5年1月11日 (水)
参 加 者	人文社会科学部 3年 2名 人文社会科学部 4年 3名	理 工 学 部 4年 2名 農学生命科学部 3年 1名、4年 1名



### 1 就職先について(現況・希望) ※参加者5名全員、県内出身

- 就職先は、県内の市役所か国の機関を希望。ボランティア活動で知った様々な支援団体の情報を必要とする人に届けたい。また、ゼミで学んだ労働環境への関心や、若者の県外就職による人口減少が加速している現状から、県内就職率の向上や地域の活性化に関わりたい。
- 県外の民間企業を希望。新しい環境で頑張りたい。労働やジェンダーに興味があり、東京や仙台等の都市圏の方が仕事は多い。
- 県内の金融機関に内定。青森が好きで県内で働きたい。コロナ禍で県外へ就職するとなかなか帰ってこれなくなり、すぐ家族に会える環境にいたい。アルバイトでサービス業に携わる中で、企業とも関わりたいと思った。就職したら自営業など夢をもって働く人たちを支援したい。
- 首都圏の通信広告業に内定。広告業界に興味があり、また、地域の活性化に携わりたかった。県内企業は情報発信力が弱い。視野を広げたいと考え、県外就職を決めた。
- 県外(北東北)の企業に内定。関東圏までを視野に入れたが、選んだ企業は自分が考えた条件と合っていた。自分の中で「働く」とは何かを考え書き出し、ワークライフバランスや将来性、安定性も視野に、好き嫌いではなく得意かどうか、ストレスがない、苦がないところを重視した。

### 2 どのようにして仕事・就職先を探したのか、その際に重視したことは

- 合同説明会に参加し、興味の有無にかかわらず、多くの企業の話聞くようにした。一部分でも自分に合う仕事があるか見ていったが、細かい作業が得意だったこともあり、テスト業務や、調査、検査といったワードに反応していたと思う。
- 合同説明会は東京や関東の企業を中心に見ていた(オンライン)。業界を選ばず、たくさん話を聞いたが、自分が嫌だな、向いていないと思う業種を削り、向いている企業を探した。新しいことに挑戦したいと考えていたため、最初はベンチャー企業に絞って見ていた。県内にこのような企業があったら選択肢に入っていたとは思いますが、進学か就職かのタイミングで関東に出たいと考えていた。
- 県内だけではなく、転勤先に青森県内がある企業も候補だと考えていた。そのため、全国規模の合同説明会や、県内で行われている対面での県外企業の説明会に参加。就職先を検討した結果、本当にやりたいことをやるには関東に出なければならないが、県外に出たいとは思えず、県内で安定している環境を選んだ。
- 将来、子どもを育てる際に、休暇が取りやすいと子育てと仕事の両立ができる。また、業務と自分の性格との相性を考えることも大事だと思った。

- 県外で働くにあたって、住宅手当など暮らす上での補助がどの程度充実しているか。ほかに、事業内容に興味を持てるか、自分の関心にひっかかるかどうかを重要視している。青森県の現状に目を向けながら就職を考えること、県外就職だと視野を狭くしないことも大事と思った。

### 3 企業説明会の様子、県内企業と県外企業との違い

- 県内企業は対面で親しみやすさがあったが、人財確保のためかグイグイ勧誘してくる企業もあり、聞く予定がなかった企業も聞いたりすることがあった。全国規模の説明会だと、参加者全体に対して説明があるため、積極的にコメントできない自分にとっては居づらかった。県外は興味があるところしか聞けなかった。
- オンラインだと自分の興味がある企業しか聞かないため、視野が狭くなると考え、合同説明会に参加。そこでは、キャッチコピー等の工夫がされており、地域など関係なく聞くことができた。自分のしたいことだったら就職先の地域は問わなかった。県内の企業説明会は、県外で良い企業が見つかった頃に始まるので、タイミングが合わなかった。
- 最終的に北東北の会社に内定。いくつか県内企業の説明会を聞き、応募もしたが、選考に通らなかつたりタイミングが合わなかつたりした。
- 関東の説明会で、社長が出るときは、会社の雰囲気がよりわかるので積極的に聞くようにしていた。
- 対面の説明会では物（グッズ等）を配っている企業が多く、話を聞くきっかけにもなった。女性職員が対応してくれると、質問しやすいこともある。合同説明会に何回も足を運んだ際に覚えてもらえてうれしかった。ブースに行かなくても、近くを通った際に声をかけてもらえるとアットホームな雰囲気を感じることができる。
- 県内の就活は早い段階で、対面での面接になることが多かったが、移動が負担になることがあった。それがハードルになり、選考に行かないことがあった。
- 大学の先輩が企業説明会に来てくれた。自分と近い立場の先輩の声を聞けると参考になる。先輩と上司の方との雰囲気等を見ることで、職場の雰囲気を肌で感じることもできた。
- 関東等では、オンラインを使った2～3時間のインターンシップがある。気軽に参加でき、企業を知り、働き方を知る機会になる。青森でもそのようなインターンシップがあればいい。

### 4 3年生から4年生への質問

#### (1) 今の時期行っていたこと、自己分析の進め方やコツ

- 合同説明会やインターンシップに参加。早い時期の選考があれば参加していた。自己分析については、何をやりたくないかを考えるだけでも、何が得意なのか絞っていける。

- 面接や面談をたくさん受けていた。答えられなかった質問を考えることで自己分析を深め、自分でわからないことを大学の先輩や企業の方と話す中で、少しずつ答えを見つけていった。
- 仕事体験等に参加。1日対面で行うイベントや、オンライン上で企業の先輩と話すイベントに参加した。関東での選考に比べてスピードが遅かったが、焦らないように気持ちを切り替えた。自己分析は、友達等に聞いて、自分が思っていることの違いを探した。後半はキャリアセンターへ行って履歴書等の添削を受けた。

## (2) 選考の中での逆質問

- 一次、二次面接では若い方による選考が多いため、仕事内容や仕事に対する考え方等を聞いた。最終面接が近くなると、会社設立の経緯などその人にしか聞けないようなことや、人となりがわかるような質問をした。
- 一次は仕事のやりがいや職場環境について聞いた。最終選考では、事業の方向性や今後について聞いた。また、就職先の仕事に関連し、近年のデジタル化と絡めて質問したりした。
- キャリアセンターの方と相談して、最近の企業の取組について聞いたりした。最終面接が近くなると、選考に時間を割いてくださったことへのお礼を伝えた。

## 5 4年生から3年生へのアドバイス

- 就活は大変なので、早く終わらせたくなくなったり、焦ったりするときもあるが、周りと比べず進めてほしい。選考がオンラインだったので、1人で進めている感覚が強い。グループワークを行うようなイベントに参加して、ほかの就活生と話せる場で悩みを共有していた。
- 対面では、待合室で就活生と企業の方が仲良く話している時があり、心が折れそうになったが、別の企業を受けている友達に悩みを相談したりした。ストレスはためないように周りを頼ることも大事だと思う。
- 就活サイトに登録しすぎて收拾がつかなくなることも。絞って使うとか、用途を決めて使うといい。写真を撮っておくのも大事。自分を表現する写真を提出しなければならないときに困った。

## 6 就活支援として望むこと

- 内定した先輩、自分と同じ立場にあった先輩と話をする機会や繋げてくれる支援があればいい。
- ゼミに入る段階で、ゼミの先輩の就職先がわかれば、学問と就職先の繋がりが想像しやすい。
- ゼミ内の就職相談会で聞いた先輩の話が一番参考になった。そのような機会が増えればいい。
- キャリアセンターに備え付けている先輩方が面接について記録を残している資料は活用した。

## 1 就職先について(現況・希望) ※参加者4名のうち県内出身2名、県外出身2名

- 県内出身で、青森県内の建設コンサルタントに内定。
- 北海道出身で、名古屋に本社がある建設コンサルタント系の企業に内定(札幌支社に勤務)。
- 県内出身で、青森県及び岩手県を圏域とする農業機械系の企業に内定。
- 愛知県出身で、就職先は食品企業を希望。県内外にこだわりはなく、地元に戻ることも特に考えていない。

## 2 どのようにして仕事・就職先を探したのか、その際に重視したことは

- 弘前大学のキャリアセンターのサイトで、過去5年分、自分の学科の先輩方の就職先を調べた。また、大学の出身者がいるところを中心に探した。待遇面と勤務地を重視。道外を出て、東京や大阪など都市部で働きたかった。道内にも同業他社はあると思うが、道外を離れてみたいことと、ある程度大きな規模の会社がよいと思った。はじめの勤務地は札幌だが、転勤や出張で本州の支社等と連携できるのがいい。最初、公務員を目指したが、ギリギリになって民間に変更。民間企業の就活準備をしていなかったが、本学出身者が働いているところなら大丈夫と思った。
- 農業系や機械系に興味があったので、そちらの方面の会社を探した。勤務地を重視。遠くには行きたいと思っていなかったこともあって、地元に近い青森県、岩手県や東北圏内で探した。(農業機械系ではヤンマー、イセキ等があるが)会社の規模や、地元に近いかどうか、大学で学んだ農業経済を活かせるかどうかが決め手となった。
- 就活アプリとキャリアセンター、グーグル等の検索エンジンで就職先を探した。地元で働きたいと思っていたので、県内で、完全週休2日制を導入している企業を主に探した。首都圏の大企業は従業員の数が多くて自分には合わないと思っていたので、中小規模で転勤がない企業を優先。

## 3 探した会社へのアプローチ

- 合同説明会に参加したときに、インターンシップの情報や連絡先を確認し、メールのやり取りをした。
- 会社(内定先)の説明会に参加し採用試験を受けたいと思ったので、メールで連絡して必要書類を取寄せて試験を受けることができた。
- 内定先の企業には、キャリアセンターで見つけたインターンシップに3年次に参加し、採用担当者の連絡先を知っていたのでコンタクトをとった。



- インターンシップは、企業ごとにいつ解禁されるかを調べて記録している。現時点で、インターンシップは1社経験。職業体験に近いもので、企業の雰囲気を知る点ではよいが、実際に働くときには別なのかと思った。

#### 4 仕事・就職を意識した時期、学年ごとの意識変化

- 流通に興味があって国際園芸学科に入った。1、2年生の勉強を経て食品に興味を持つようになり、食品関係の職に就きたいと思うようになった。
- 入学前から農業に興味があって、農業に関する職業に就けたらいいと思っていた。就職活動の中で流通、銀行、自動車関係等の情報も調べてみたが、学んできたことを活かせる仕事をしたかったので、最終的に農業機械に落ち着いた。
- あまり就職先のことは考えず、地学に興味があったので地学系の学科に入学。1、2年で防災や建設コンサルタント系の知識を増やしていくことで、建設コンサルタントに興味を持った。3年生のころ就職先を探し始め、建設コンサルタントに就職。建設コンサルタントは、官公庁が構造物をつくりたいと決めて建設会社に依頼する前に行う、設計、調査、測量を専門的に扱う業種。
- 就職活動を意識したのは3年生の前期あたり。入学したころは、学んでいることを活かしたいということ以上は考えなかった。自分の学科で公務員志望が多かったことや、親にも勧められて公務員を目指し勉強していたが、社会インフラに関わる仕事に興味をもって、3年生の3月頃に進路を変更し、建設コンサルタントの関連企業を中心に試験を受けていた。

#### 5 県内企業と県外企業との違い、県内企業に関する情報が少ないという声について

- 奨学金の返済を県内企業が負担してくれる制度は、限定的とは思いますが、他県にない(少ない)取組。内定先が対象になっていれば利用したいと思っていた。
- 県外の企業ばかり受けたが、コスト(交通費、ホテル代、食費等)がかかるということを実感。
- 県外企業は受けなかった。県内企業はどこも人手が足りないのでウェルカムな雰囲気を感じた。県内企業についての情報は探せばあるのだろうが、就活アプリにはあまり掲載されていない。
- 青森県内であっても働きたい職種があれば働きたいと思ってはいる。県内の食品企業や流通企業の情報があまり入ってこないので、県内就職は今のところ考えていない。地元愛知に戻りたいというこだわりはない。

#### 6 4年生への質問

##### (1) 就活をするにあたって一番大切なこと

- 自己分析は何度もやった方がいい。時間が経つと気持ちが変わったり、違う業種に興味があるこ

とがわかってくることもある。また、自分でも気づかない長所・短所がわかる。

- 周りに流されずに、自分でこうしたいと決めたら、ブレないことが大事。自己分析の重要度は高いと思う。自分のことは意外に気づいていないこともあるので、長所・短所を知って面接等でも使える。
- 自己分析では、自分の性格や、どういうことに向いているかなどに焦点を当ててみていた。インターンシップや説明会もいろいろな業種に参加してみて、自分の中で決めていけばいいと思う。

## (2) その他

- 活用した就活アプリは？・マイナビ、リクナビ、キャリアス。ホームページよりアプリを活用する方が多い。
- 「青森県企業ガイドブック」(青森県労政・能力開発課)を見たことがある人は？・2名(頷く)。ホームページで見た。いろいろ詳細が書かれてよかったと思う。
- 研究室で先生等から就職先について話があることは？・研究室に配属になるときに先輩方の就職先に関する説明はあった。担当教員からはアドバイスをいただいたり、自己分析シートの添削等をしていただいた。
- 研究室で得た情報は就職判断の際に重要視したか？・はい。先輩方の就職先は意識してみている、最終的に自分の考えていた企業に行けることになった。
- 研究室を決めるときに、先輩の就職先を参考にしたことは？・先輩方の就職先を聞いた上で研究室を選んだ。

## 7 就活支援として望むこと

- キャリアセンターの就活系の講座はリアルタイムでしか受講できないので、オンデマンドで見られるようになればよい。
- 3年前期から後期にかけて「エンカレッジ」という就職支援団体の先輩と話す機会があつて助かった。就活を終えた先輩から実際に話を聞く機会があればいいと思う。

### 【お問い合わせ先】

弘前大学 社会連携課 地域交流グループ係長 須田 誠一

☎ 0172 - 39 - 3413 ✉ jm3413@hirosaki-u. ac. jp